



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社トランスジェニック

上場取引所 東

コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 健司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理財務部長 (氏名) 渡部 一夫

TEL 092-288-8470

四半期報告書提出予定日 2019年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	5,191	20.1	45	55.5	14	79.8	41	
2019年3月期第2四半期	4,324	405.7	103		73		28	

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 29百万円 (%) 2019年3月期第2四半期 66百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	2.41	
2019年3月期第2四半期	1.69	1.68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	7,777	4,862	62.5	279.73
2019年3月期	6,475	4,886	75.4	281.32

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 4,858百万円 2019年3月期 4,882百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,850	13.6	350	29.6	290	13.1	205	1.4	11.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	17,369,141 株	2019年3月期	17,358,141 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	1,421 株	2019年3月期	1,421 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	17,367,714 株	2019年3月期2Q	16,768,616 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績見通しのご利用に当たっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、当社は、当第2四半期連結累計期間に、新株予約権の行使により、新たに普通株式11,000株を発行しており、業績予想の「1株当たり当期純利益」は当該株式を含めて算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資を中心とした内需が底堅く推移し、緩やかな回復基調を維持しました。

当社グループが属するバイオ関連業界におきましては、大手製薬企業の中には成長の鈍化の中で事業の整理や人員の削減を図る企業もある反面、ベンチャー企業などにおいては新製品の研究・開発の動きが活発化しました。このような環境の中で、当社グループは次のような活動を行いました。

CRO^{*1}事業においては、既存顧客との取引を拡大・深化させるとともに新規顧客の開拓に注力し、受注強化に努めました。特に、株式会社安評センターでは大型動物飼育管理施設の修繕・整備を完了して受注体制を整え、従来の中・小型動物に加え大型動物の非臨床試験の新規受注に注力いたしました。また、株式会社ボナックとは、非臨床試験の受託拡大を目的として、同社が研究開発している核酸医薬品パイプラインの拡充及び実用化のために当社グループの研究施設・実験機器、研究員の活用を提供する包括的な業務提携を行いました。

診断解析事業においては、一層の品質向上及び事業効率化に取り組むとともに、コンパニオン診断^{*2}システムを用いた検査サービス体制を整えるなど、遺伝子解析技術及び豊富な病理診断技術を活かしたサービスの拡充に取り組みました。また、網羅的がんクリニカルシーケンス^{*3}サービスの採用医療機関の確保に努め、さらには、子宮頸がんの早期発見に貢献すべく、子宮頸がんリスク検査である自己採取HPV^{*4}検査の有用性の啓蒙活動及び営業活動に注力するとともに子宮頸がん検診の普及に取り組む地方自治体との検査委受託契約締結を推進いたしました。

TGBS事業においては、Eコマース事業において売れ筋商品の仕入れに努めるとともに、プラットフォーム(大手通販サイト)経由の販路拡大に注力いたしました。また、Eコマース事業以外では、事業承継コンサルティング業務の取り組みを強化いたしました。さらに、2019年4月1日に連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、複層ガラス用副資材やガラス加工設備等の輸入販売を展開する株式会社TGMの全株式を取得し子会社化いたしました。そして、株式会社TGMにおいては、設備投資需要の取り込みを強化し、主力商品であるガラス加工設備の受注獲得に注力いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、第1四半期連結会計期間より連結グループに加入した株式会社TGMの売上(TGBS事業のうち「その他」)が寄与し、5,191,780千円(前年同期比20.1%増)と前年同期比で大幅な増収となりました。しかし、営業利益につきましては、株式会社TGMの利益が大きく寄与したものの、CRO事業において、比較的利益率の低い試験の売上が集中したことや、株式会社安評センターにおいて設備及び人材に対する受注強化のための先行投資を進めたことで固定費が増加したこと、45,868千円の黒字(前年同期比55.5%減)に留まりました。なお、経常利益につきましても同様に、14,928千円の黒字(前年同期比79.8%減)に留まったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、法人税等を計上したことにより41,820千円の赤字(前年同期は28,352千円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

なお、当社グループの売上高は、TGBS事業を除き季節的変動が著しく、下半期(特に第4四半期)に売上高が集中する傾向にあります。

^{*1} CRO : Contract Research Organization(医薬品開発業務受託機関)

^{*2} コンパニオン診断 : 分子標的薬が、投薬対象者に有効かどうかを投与前に予測するために、標的分子の発現量や関連遺伝子変異、遺伝子多型などのバイオマーカーを検査し診断すること

^{*3} クリニカルシーケンス : 次世代シーケンサー(DNAを構成する塩基の配列を高速で読み取り、ゲノム情報を解読する装置)を用いて、がん細胞の遺伝子変異を網羅的に解析し、診断や治療の参考となる知見を得るための解析手法

^{*4} HPV : Human papillomavirus(ヒトパピローマウイルス)

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
C R O 事業	820,821	△173,133	△17.4	△7,886	△178,949	—
診断解析事業	352,370	△14,881	△4.1	△12,566	△6,337	—
T G B S 事業	4,024,036	1,051,340	35.4	167,755	132,119	370.7
(Eコマース)	(2,653,781)	(△116,986)	△4.2	(25,411)	(4,396)	20.9
(その他)	(1,370,255)	(1,168,326)	578.6	(142,344)	(127,723)	873.6

(注) 括弧内の金額は、T G B S 事業の各内訳金額であります。

① C R O 事業

当事業では、医薬品・食品の臨床試験受託及び薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験、農薬・食品関連物質などの安全性試験などの非臨床試験受託を行っております。また、遺伝子改変マウスの作製受託、モデルマウスの販売や作製モデルマウスを用いた非臨床試験の受託、抗体作製受託、及び新規バイオマーカーの開発などを行っております。当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、株式会社安評センターにおいて事業譲受けで承継した試験の売上が集中した前第2四半期を含む前年同期と比較して、減収（前年同期比17.4%減）となりました。また、比較的利益率の低い試験の売上が集中したことや、株式会社安評センターにおいて更に受注体制を強化するため設備及び人材に対する先行投資を進めたことで固定費が増加し、営業損益につきましても損失となりました。

② 診断解析事業

当事業では、病理専門医による豊富な診断実績及び最新のバイオマーカー解析技術を生かした高品質な病理診断サービス、遺伝子解析受託サービス及び個別化医療に向けた創薬支援サービスを行っております。当第2四半期連結累計期間の経営成績は、病理診断の検体数は増加したものの、遺伝子解析受託サービス等の伸び悩みにより、売上高は前年同期比で減収（前年同期比4.1%減）となり、営業損益につきましても損失となりました。

③ T G B S 事業

当事業は、株式会社T G ビジネスサービスによる事業であり、M&Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援サービスを行っております。当第2四半期連結累計期間の経営成績は、Eコマース事業の売上が伸び悩んだものの、第1四半期連結会計期間より連結グループに加入した株式会社T G Mの売上が大きく寄与したため、売上高は前年同期比で大幅な増収（前年同期比35.4%増）となり、営業損益につきましても167,755千円（前年同期比370.7%増）の大幅な増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は4,017,153千円となり、前連結会計年度末に比べ1,114,196千円増加いたしました。これは主に、仕掛品が229,900千円増加したほか、主として株式会社TGMの連結子会社化により現金及び預金が491,979千円、商品及び製品が165,373千円、その他流動資産が160,534千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は3,759,938千円となり、前連結会計年度末に比べ187,617千円増加いたしました。これは主に、設備投資により有形固定資産が40,675千円、主として株式会社TGMの連結子会社化により無形固定資産ののれんが93,230千円それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,951,389千円となり、前連結会計年度末に比べ819,451千円増加いたしました。これは主に、株式会社TGMの連結子会社化により、買掛金が205,062千円、短期借入金が180,000千円、前受金が443,575千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定負債は963,342千円となり前連結会計年度末に比べ506,747千円増加いたしました。これは主に、未払金への振替による長期末払金が50,305千円減少したほか、子会社の資金調達及び株式会社TGMの連結子会社化により社債が280,000千円、長期借入金が262,753千円それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は4,862,360千円となり、前連結会計年度末に比べ24,385千円減少いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が16,522千円増加した一方、親会社株主に帰属する四半期純損失を41,820千円計上したことによるものであります。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは186,974千円の収入（前年同期は182,002千円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益6,965千円（前年同期は73,857千円の利益）に減価償却費70,499千円などの非資金費用、売上債権の減少額76,248千円、前受金の増加額241,399千円を加算調整した一方、たな卸資産の増加額205,269千円、法人税等の支払額67,821千円を減算調整したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは39,637千円の支出（前年同期は599,771千円の支出）となりました。これは主に、株式会社TGMの株式取得に要した支出に対して当該会社が新規連結時に保有していた現金及び現金同等物が上回ったことによる純増75,425千円、保険積立金の解約による収入45,497千円により資金が増加した一方、有形固定資産の取得による支出146,252千円により資金が減少したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは345,973千円の収入（前年同期は29,912千円の支出）となりました。これは主に、社債の発行による収入300,000千円、長期借入れによる収入200,000千円により資金が増加した一方、長期借入金の返済による支出72,411千円、長期末払金の返済による支出57,805千円により資金が減少したためであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ491,979千円増加し、1,769,501千円（前年同期末1,325,077千円）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の売上高は5,191,780千円（2020年3月期通期の連結業績予想売上高の52.7%）と順調に推移しております。また、当社グループのCRO事業及び診断解析事業セグメントの売上高については季節的変動が著しく、下半期（特に第4四半期）に売上が集中する傾向にあります。

このため、現時点におきましては2019年5月10日に公表いたしました2020年3月期通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,277,521	1,769,501
受取手形及び売掛金	694,171	760,838
商品及び製品	247,121	412,495
仕掛品	343,799	573,699
原材料及び貯蔵品	70,358	70,118
その他	270,743	431,277
貸倒引当金	△759	△778
流動資産合計	2,902,957	4,017,153
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,547,090	1,582,430
減価償却累計額	△448,779	△474,092
建物及び構築物(純額)	1,098,311	1,108,338
土地	812,230	812,230
その他	784,095	851,888
減価償却累計額	△532,929	△570,073
その他(純額)	251,166	281,814
有形固定資産合計	2,161,707	2,202,383
無形固定資産		
のれん	484,776	578,007
その他	12,819	36,172
無形固定資産合計	497,595	614,179
投資その他の資産		
投資有価証券	565,446	566,051
その他	350,071	383,837
貸倒引当金	△2,500	△6,512
投資その他の資産合計	913,017	943,376
固定資産合計	3,572,320	3,759,938
資産合計	6,475,278	7,777,092

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,045	258,107
未払金	408,252	321,223
短期借入金	130,000	310,000
1年内償還予定の社債	12,000	26,000
1年内返済予定の長期借入金	101,919	160,559
未払法人税等	82,318	53,065
前受金	247,605	691,180
賞与引当金	8,031	24,662
その他	88,766	106,591
流動負債合計	1,131,938	1,951,389
固定負債		
社債	12,000	292,000
長期借入金	289,523	552,276
長期末払金	115,610	65,305
退職給付に係る負債	24,463	24,107
その他	14,997	29,652
固定負債合計	456,594	963,342
負債合計	1,588,532	2,914,731
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,481,772	3,484,241
資本剰余金	1,229,718	1,232,188
利益剰余金	235,608	193,788
自己株式	△1,725	△1,725
株主資本合計	4,945,373	4,908,492
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△59,697	△43,175
為替換算調整勘定	△2,844	△7,016
その他の包括利益累計額合計	△62,542	△50,192
新株予約権	3,914	4,059
純資産合計	4,886,745	4,862,360
負債純資産合計	6,475,278	7,777,092

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	4,324,250	5,191,780
売上原価	3,588,360	4,369,323
売上総利益	735,889	822,457
販売費及び一般管理費	632,751	776,588
営業利益	103,138	45,868
営業外収益		
受取利息	2,328	2,406
保険解約返戻金	—	42,297
その他	1,913	3,569
営業外収益合計	4,241	48,273
営業外費用		
支払利息	3,795	10,610
為替差損	2,541	8,237
持分法による投資損失	11,420	11,828
社債発行費等	—	7,937
買収関連費用	—	34,607
債権整理損	7,599	—
その他	8,166	5,992
営業外費用合計	33,522	79,213
経常利益	73,857	14,928
特別損失		
固定資産除却損	—	7,962
特別損失合計	—	7,962
税金等調整前四半期純利益	73,857	6,965
法人税、住民税及び事業税	37,143	41,579
法人税等調整額	8,362	7,206
法人税等合計	45,505	48,786
四半期純利益又は四半期純損失(△)	28,352	△41,820
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	28,352	△41,820

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	28,352	△41,820
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△90,494	16,522
為替換算調整勘定	△4,027	△4,172
その他の包括利益合計	△94,522	12,350
四半期包括利益	△66,170	△29,470
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△66,170	△29,470
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	73,857	6,965
減価償却費	57,767	70,499
のれん償却額	34,521	40,513
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,046	2,717
受取利息及び受取配当金	△2,344	△2,406
保険解約返戻金	—	△42,297
支払利息	3,795	10,610
持分法による投資損益(△は益)	11,420	11,828
売上債権の増減額(△は増加)	248,451	76,248
たな卸資産の増減額(△は増加)	△80,894	△205,269
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,026	49,276
未払金の増減額(△は減少)	△58,994	△67,512
前受金の増減額(△は減少)	△108,435	241,399
その他	25,526	74,149
小計	200,692	266,723
利息及び配当金の受取額	387	683
利息の支払額	△4,824	△12,611
法人税等の支払額	△14,252	△67,821
営業活動によるキャッシュ・フロー	182,002	186,974
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△74,907	△146,252
関係会社株式の取得による支出	△80,000	—
貸付けによる支出	△20,200	△10,000
貸付金の回収による収入	647	16,070
保険積立金の解約による収入	87	45,497
事業譲受による支出	△429,083	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	75,425
その他	3,684	△20,378
投資活動によるキャッシュ・フロー	△599,771	△39,637
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行による収入	—	300,000
社債の償還による支出	△6,000	△6,000
短期借入金の増減額(△は減少)	80,000	△20,000
長期借入れによる収入	124,602	200,000
長期借入金の返済による支出	△409,752	△72,411
長期未払金の返済による支出	△57,805	△57,805
新株予約権の行使による株式の発行による収入	241,332	4,885
その他	△2,289	△2,695
財務活動によるキャッシュ・フロー	△29,912	345,973
現金及び現金同等物に係る換算差額	259	△1,330
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△447,422	491,979
現金及び現金同等物の期首残高	1,772,500	1,277,521
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,325,077	1,769,501

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	診断解析事業	TGBS事業					
			Eコマース	その他	小計			
売上高								
外部顧客への売上高	990,553	361,000	2,770,767	201,928	2,972,696	4,324,250	—	4,324,250
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,402	6,251	—	—	—	9,653	△9,653	—
計	993,955	367,252	2,770,767	201,928	2,972,696	4,333,903	△9,653	4,324,250
セグメント利益又は 損失(△)	171,063	△6,228	21,015	14,620	35,635	200,470	△97,332	103,138

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△97,332千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	診断解析事業	TGBS事業					
			Eコマース	その他	小計			
売上高								
外部顧客への売上高	816,061	351,709	2,653,755	1,370,255	4,024,010	5,191,780	—	5,191,780
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,759	660	26	—	26	5,446	△5,446	—
計	820,821	352,370	2,653,781	1,370,255	4,024,036	5,197,227	△5,446	5,191,780
セグメント利益又は 損失(△)	△7,886	△12,566	25,411	142,344	167,755	147,302	△101,433	45,868

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△101,433千円あります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、株式会社TGMの連結子会社化に伴う企業結合により1,011,959千円の資産を受け入れたため、前連結会計年度の末日に比べ「TGBS事業」のセグメント資産が著しく増加しております。

3 報告セグメントの変更等に関する情報

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、株式会社TGMの株式を取得し同社を連結子会社としたため、報告セグメント「TGBS事業」へ含めております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社TGビジネスサービスが、株式会社TGMの株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、「TGBS事業」のセグメントにおいて、のれん134,481千円が発生しております。